



手作りしたメニュー札を設置する
須崎工高生(須崎市大間東町)

焼き鳥店が依頼 ものづくりで地域貢献

須崎市

須崎工高生が メニュー札

【須崎】ものづくりを通じて地域に貢献しようとして、須崎市の須崎工業高校の生徒が、地元の焼き鳥店のメニュー札を製作した。県産ヒノキにレーザー加工で文字を焼き付けた力作で、生徒は「多くの人に見てもらいたい」と思いを込めている。

同校ユニバーサルデザイン(UD)科は、レーザー加工機を使い、防犯啓発用の木製コースターなどを作っている。今回は、同市大間東町で焼き鳥店「鳥よし」を切り盛りする市川か

おりさん(36)が、生徒たちの活動を知り、店頭に飾るメニュー札の製作を依頼した。

UD科の3年生7人が課題研究の授業の一環で製作に挑戦。文字の大きさや板の厚さなどを試行錯誤しながら、縦30センチ、横10センチのメニュー札16枚を仕上げ、12月上旬に設置した。

前田雄偉さん(17)は「大事な看板なので傷を付けないように作業しました。地元の人に協力できていい経験になった」とやりがいを感じた様子。市川さんは「お客さんに見てもらえれば、生徒たちの活動を知ってもらうきっかけになると思う」と笑顔で話していた。

(山本 仁)



地域に貢献 メニュー札作成

焼き鳥店「鳥よし」と連携

須工ユニバーサルデザイン科